



# H29年度栄養方法の内訳



	退院時			2週間健診			1ヵ月健診		
	母乳栄養	混合栄養	人工栄養	母乳栄養	混合栄養	人工栄養	母乳栄養	混合栄養	人工栄養
H29 初産婦(総数 105名)	15.2%	83.8%	1.0%	29.5%	69.5%	1.0%	31.4%	66.6%	2.0%
H28 初産婦(総数 120名)	21.2%	70.0%	1.0%	33.0%	62.5%	4.5%	42.0%	50.0%	8.0%
H29 経産婦(総数 144名)	30.6%	69.4%	0.0%	51.4%	45.1%	3.5%	52.1%	43.8%	4.1%
H28 経産婦(総数 180名)	33.0%	54.0%	1.0%	54.0%	43.9%	2.0%	62.0%	34.2%	3.5%
H29 全体(総数 249名)	24.1%	75.5%	0.4%	42.2%	55.4%	2.4%	43.4%	53.4%	3.2%
H28 全体(総数 300名)	28.5%	61.0%	1.0%	46.2%	50.8%	3.0%	54.1%	40.5%	5.4%

## ❀ 母乳栄養について ❀

当院では、母乳栄養を推奨し、取り組んでいます。

例年、母乳栄養について、退院時、2週間健診時、一ヶ月健診時で確認を行っています。

結果、一昨年、昨年ともに母乳率は全国平均程度ですが、

昨年は混合栄養率が一ヶ月健診時に53.4%（初産婦さん66.6%、経産婦さん43.8%）と一昨年より高率でした。

混合栄養率が上昇している背景にはライフスタイルの変化による授乳への関わり方が変わってきていると思われます。

女性の就業率の増加、核家族化、出産年齢の上昇などの影響などが考えられます。

しかし、母乳は、栄養を与えるという目的以上に母児関係を築く上で重要です。

このため、当院では母親のニーズにこたえながらも母乳栄養を取り入れられるよう支援していきます。

妊娠時にバースプランとして授乳に対する希望をお聞きしていますが、その中では、「出来るだけ母乳で育てたい」というご希望が大半です。では、出来るだけ母乳で育てていく為には、

- ①妊娠中から適切なおっぱいケアを知り、実施していく。
- ②出産後出来るだけ母児同室で、ベビーが泣いたらいつでも授乳する。
- ③おっぱいが出始めたら、ミルクを足し過ぎないようにする。

ということが、必要になります。

そして、母乳育児に悩んだ時には、退院されてからも、2週間健診や1ヶ月健診、母乳外来等で相談していただくことが出来ます。

授乳への取り組みは、個人差がありますが、お母さんがリラックスして楽しみながら、母乳育児に取り組んで頂き、さらなる母乳率の上昇に努めていきたいと思っております。